



NPO法人
岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会

いわて中部ネット だより

NPO法人岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会会長
なかだて いちろう
(医) 中館内科クリニック 院長 中館 一郎 先生

令和5年度
いわて中部ネット
会長就任

ご挨拶

「情報の共有・利用と医療資源の活用を」

2024年1月の能登半島地震で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

私たちは、何処でも起こりうる災害に医療や介護を提供できるよう備えなければなりません。

また、日本の少子高齢化は急速に進行しています。2040年には65歳人口が全人口の35%に及ぶという超高齢化社会が確実に訪れます。超高齢化は、複数の疾患が併存する患者の増加を意味し、治癒が難しくなり、介護の面では自立生活困難者の増加など、医療や介護のニーズが益々増加していくと言われています。

このような人口構造の変化がもたらす課題へ対応するため、地域全体で効率的に患者さんを支えていく仕組みとして医療情報の共有化が謳われて久しく、その間に国などが設立した補助金の制度等を利用して地域医療情報連携ネットワークが全国各地に立ち上がりました。地域の实情に応じて様々な方法で運営され、成果をあげている地域もありますが、利用促進や運営費用の点に課題を抱えるところも多くみられるようです。また、このとき国は電子的な規格・仕様の標準化を図り基準を定めていなかったため、全国各地に電子的な規格・仕様の異なるシステムが乱立しました。

一方、近年マイナンバーカードを中心とした医療データの一元管理、すなわち医療DXが国によって事実上の強制で進められ、「いわて中部

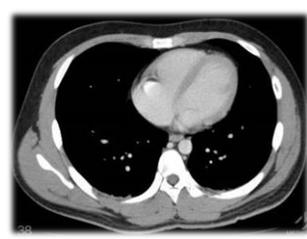
ネット」のような地域医療情報連携ネットワークと競合する面が多くみられるようになっているのも事実です。

我々は今後いかにして患者の医療・介護等の情報を共有・利用し、地域の医療資源を無駄なく活用するかを考えながら進んでいかなければならない状況にあります。

例えば、国が進める医療DXには検査結果やCT・MRI画像の蓄積は無いのですが、「いわて中部ネット」は検査結果などが蓄積される仕組みなので、検査結果等については、いわて中部ネットを活用するということです。

検査結果詳細画面

異常	所見	検査項目名	検査結果	単位	標準
<input type="checkbox"/>		血算			
<input type="checkbox"/>		WBC	85	$\times 10^3 / \mu$	
<input type="checkbox"/>		RBC	468	$\times 10^4 / \mu$	
<input type="checkbox"/>		HGB	12.3	g/dl	
<input type="checkbox"/>		HCT	36.9	%	
<input type="checkbox"/>	▼	MCV	78.6	fl	
<input type="checkbox"/>	▼	MCH	26.3	pg	
<input type="checkbox"/>		MCHC	33.3	g/dl	



会員施設の皆様の積極的なご意見を汲み、いわて中部ネットの利活用について有用性、将来性、コスト問題などを検討しながら進んで参りたいと考えております。

また、いわて中部ネットの仕組みについて、市民の皆様のご理解を得られるよう説明に努め、地方自治体からのご支援を賜り、連携を図りつつ運営して参りますので、今後ともいわて中部ネットへのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。





いわて中部ネット活用事例について

* 医科クリニック



・通院されている患者さんが県立中部病院などへ搬送されて救急診療を受けて、その後、また自院へ来院するとき、その病院の検査結果等の診療情報を参照しています。

・糖尿病の患者さんが合併症を発症し、病院へ紹介した際の情報共有に役立っています。

・エコー検査で「がん」を疑ったが、自院にCTやMRIが無い場合に病院へ紹介し、その病院のCT画像等を閲覧します。紹介・逆紹介をした際に、詳細をいわて中部ネットで閲覧すれば省力化になります。

・検査画像をCDで届ける場合には時間がかかる場合があり、概ね翌日には閲覧できるので情報共有がスムーズです。

・お薬手帳は、貼るのが漏れている場合や、見られたくない薬のシールをわざと貼っていない場合もあるので、その分も把握できます。

などを確認し、退院予測の参考にします。

・糖尿病、心不全などがあるご利用者さま、電解質や腎機能、CRP値が良くないご利用者さまは、特に検査結果の実際の数値を注意深く画面で見えて健康状態の把握に努めています。

* 薬局



・薬は肝臓や腎臓で代謝されるため、肝機能、腎機能が低下している人は注意が必要です。意の医薬品でも複数組み合わせることで禁忌になる薬もあるので、病院と薬局のダブルチェックにより安全性を高めます。

・薬の重複や飲み合わせのチェックに活用しトラブル回避ができます。お薬手帳を忘れてしまった時でもいち早く気が付き重複を避けることが可能です。

・抗がん剤など病院の治療で使用されている薬が分かれば副作用の予測が立てやすく、来局時に処方薬以外の副作用の確認できます。

* 介護事業所



・ご利用者さまに貧血がある場合、医療機関での採血検査の数値の連絡が、介護事業所へあるとは限りません。参加医療機関であれば、数値を画面で見えて、健康状態の把握の参考にします。

・薬が変更されていないかなどの医療情報の収集を行っています。

・ご利用者さまの健康診断を医療機関で実施した際に、結果の書面が届くのに時間がかかることがあります。血液検査等の数値を早めにチェックできます。

・自分の施設に来ている患者さんの一覧を表示する機能を使って、しばらく来ていない患者様をチェックし、次回の来店に備えます。複数の医療機関で集めた患者様の情報を共有しておくことは心強いです。

・副作用、アレルギー等の患者様毎の情報を登録することで他科を受診した時にも安全に薬を使用することができます。また、処方編集から処方コメント、RPコメントを登録して処方毎に共有したい情報を登録することもできます。

ご利用者さまが肺炎で入院となった際に、入院中の採血検査のCRP（炎症反応）の数値

2024Vol. 1 2024年2月発行

〒025-0092 岩手県花巻市大通り2丁目6-23

特定非営利活動法人 岩手中部地域医療

情報ネットワーク協議会 事務局

TEL:0198-41-8289 FAX:0198-41-8290

Mail: info@chubunw.com

